

# がんセンター だより

Tochigi  
Cancer Center  
Dayori



栃木県立がんセンターの希少がん対策



栃木県立がんセンター  
希少がんセンター 横島一彦

表紙写真：2021年度市民公開講座の様子  
※栃木県総合文化センターにて

- P.1 ・ 年頭所感
- P.2 ・ ロボット支援食道がん手術（ダビンチXi）
- P.3 ・ 希少がんセンターの近況
- P.4 ・ 2021年度 市民公開講座
- P.5-6 ・ がん治療と生殖機能への影響について  
妊孕性温存治療の助成事業について



地方独立行政法人  
栃木県立がんセンター

## 年頭所感

明けましておめでとうございます。  
地域の医療機関の皆様には多大なる御支援御協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の波に襲われながらも開催された東京2020オリンピック・パラリンピックでの選手の活躍や、毎日のように放映された大リーグでの大谷翔平選手のニュースに勇気をもらった方も多かったのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの感染拡大からほぼ二年がたちました。昨春からワクチン接種が開始されたものの、夏には世界中がパンデミックに見舞われ、また、次々と変異するウイルスに翻弄され、出口の見えない閉塞感を抱えていましたが、昨年末に新型コロナウイルス軽症者を対象にした初めての飲み薬が特例承認されて使用可能になるなど、ここに来てわずかな光が見え始めたように感じます。

当センターでは栃木県の要請に応じて新型コロナウイルス感染症患者受入れを行い、一年を通じ病院全体で感染予防対策に追われる日々でした。感染管理認定看護師のリーダーシップのもと、がんセンター職員一人一人が感染防止に奮闘し、乗り越えられたのだと感謝するとともに誇りに思っております。コロナ禍に翻弄されることなく、今後も当センターはがん専門病院として県民への医療提供体制を維持し、連携病院の皆様とともに地域医療に貢献していく所存です。

さて、今年の干支は「壬寅（みずのえとら）」です。「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊（はら）む」、「寅」は「蟻（ミミズ）に通じ、春の草木が生ずる」という意味で、「壬寅」は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長が始まる年となるそうです。

これまでの我慢と地道な取り組みが新しい芽となり、いずれ大きな花を咲かせることを期待し、新しい年が皆様にとりまして、希望に満ちた輝かしい年となりますことを心よりお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

地方独立行政法人栃木県立がんセンター  
理事長兼センター長 菱沼 正一



## ロボット支援食道癌手術を開始

食道胃外科 科長 松下 尚之

**2021年12月から当センターでは最新鋭機ダビンチXiを用いた食道癌手術を保険診療で行っています。**

従来の開胸開腹による食道癌手術は最も侵襲の大きい手術とされてきました。当センターでは胸部操作と腹部操作の両方を鏡視下手術で行う“低侵襲食道切除術” Minimally Invasive Esophagectomy : MIEの開発を進め、2019年は食道癌手術の全例にMIEを施行しました。2020年に最新の手術支援ロボット“ダビンチXiサージカルシステム”を導入しました。我々は侵襲を最小化し、より精緻な手術を追求しています。

### ダビンチ手術の特徴

ダビンチは精緻な3次元拡大映像を見ながら、ヒトより可動域の広い安定した精密な関節機能を有するアームを熟練した外科医が操作して手術を行います。

多関節機能

モーションスケーリング機能



- ① 多関節機能：人間の手首のように、自由に屈曲・回転
- ② モーションスケーリング機能：大きな手の動きを小さな鉗子の動きに変換
- ③ 手ぶれ防止機能：人間の自然な手ぶれが鉗子に伝わらないように自動補正
- ④ 安定した高解像度3Dカメラ：手術部位を正確な距離間隔で明瞭に視認できる

### 食道癌手術でのメリット

術野が縦長で狭く、肋骨による動作制限が加わる食道癌手術では、ダビンチが威力を発揮します。ダビンチの精緻な3次元拡大映像は、従来のカメラでは見えなかった臓器の膜構造や筋膜、さらに神経上膜などを明らかにし、正確な剥離が可能となります。



また、ダビンチの多関節機能により、肋骨による動作制限を乗り越え、反回神経に愛護的に操作が可能です。麻痺の軽減や精緻な郭清が可能となり、治療成績の向上が期待できます。

当センターでロボット手術を行っている診療科

食道胃外科・大腸骨盤外科・婦人科・泌尿器科・呼吸器外科

## 希少がんセンターの近況

希少がんセンター センター長 横島 一彦

栃木県における希少がん臨床の新拠点を目指して、2020年4月に設立された希少がんセンターは新型コロナウイルス感染症蔓延の影響を受け、大規模な研究会や広報活動ができないうちがありました。昨年末時点では新規感染者数が減少していたため、状況を見ながら活動を再開しているところです。

当センターの一番の目標は、集学的診療を充実することで“がん難民”を少なくすることです。ボードカンファレンスを充実させ、職員の教育のために勉強会・研修会を企画しています。希少がんの診療レベルの向上は、患者さんの悩み・不安の軽減につながるものと信じています。

診療情報が不足している患者さんやその家族にとって、新しい情報を知り、同じ病気で闘病している“同志”と知り合うことも重要です。Websiteの充実を図るとともに、講演会を企画しています。先日の市民公開講座では、東京パラリンピック車いすバスケットボール男子銀メダリストの高橋義伸<sup>たかまつよし</sup>さんをお迎えし主治医との対談を行い、多くの方にお集まりいただきました。



### 診療が困難な理由



### TCC 希少がんセンターの取り組み

#### 集学的診療

希少がんボードカンファレンス  
分野を超えて、職種を超えての議論  
高度医療の実践  
診断、治療から緩和治療まで

#### 診療支援

がん難民を少なくしたい  
Websiteでの希少がん相談  
セカンドオピニオン外来の充実

#### 情報提供・患者支援

Websiteの充実、セミナー・講演会開催  
院外向けの、積極的な情報発信

#### 職員の教育・研修

職員の知識充実と意欲向上  
外部講師の招聘  
センター委員の講演

#### 臨床的・基礎的研究の推進

バイオバンクとの連携  
研究成果の臨床応用  
研究費の獲得

## 2021年度 市民公開講座

がん相談支援センター GM 平野 尚美

2021年11月26日（金）に栃木県総合文化センターにて2021年度市民公開講座を開催し、152名の方にご参加いただきました。

まず初めに希少がんセンターセンター長の横島一彦医師より、「栃木県立がんセンターの希少がん対策」と題して講演いたしました。希少がんについて分かりやすくお話をさせていただき、参加された方々に知識を深めていただけたのではないかと思います。

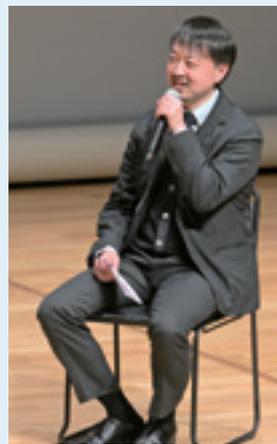
続いて、東京パラリンピック車いすバスケットボール男子銀メダリストの高松選手をお招きして、「希少がんに罹患して」と題して主治医である骨軟部腫瘍・整形外科科長の菊田一貴医師との対談形式でお話をお伺いしました。高松選手は骨肉腫が見つかり左脚を切断されました。その後、車いすバスケットボールと出会い、競技開始6年目でパラリンピックに出場されました。対談時には競技用車いすで巧みな車いすさばきを披露され、また、獲得した銀メダルも披露していただき、会場はたいへん盛り上がりました。



東京2020パラリンピック  
車いすバスケットボール男子  
銀メダリスト 高松 義伸 選手

また、高松選手の病氣と闘いながらも明るく前向きな考えや気持ちは、希少がんで苦しんでいる方への力強いメッセージになったと思います。

コロナ禍により患者さん同士が互いに悩みを話せる機会が少ない状況ではありますが、今回の市民公開講座が、がん患者さんの治療を継続していく上での支えになりましたら幸いです。



骨軟部腫瘍・整形外科科長  
菊田 一貴 医師



※撮影のためマスクを外しています。

# がんの治療と生殖機能への影響について

～がんの治療前に、将来子どもを持つことについて考えてみませんか～

がん治療の進歩によって、多くの患者さんが、がんと共存あるいは克服することができるようになってきました。

しかし、がんの治療によっては生殖機能に影響し、妊娠するための力『妊孕性（にんようせい）』が低下して将来自分の子どもを持つことが困難になることがあります。

がんと診断されてすぐは、がん治療のことで頭がいっぱいかもしれませんが、少し立ち止まって、ご家族やパートナーの方など大切な人と、将来子どもをもつことについて話し合ってみませんか。

## がん治療と妊孕性温存

妊孕性とは、**男女を問わず**、妊娠するための力のことを言います。

がんそのものや、がんの治療によって、妊孕性にどのような影響があるのか治療を始める前に主治医（がん治療医）に確認しましょう。

※がん治療すべてに妊孕性の低下リスクがあるわけではありません。がんの種類や治療内容などによってがん治療が妊孕性に与える影響は異なります。

※ご相談は、看護師やがん相談支援センターの相談員などの医療スタッフもお受けしています。お気軽にご相談ください。

一人で悩まずに、  
家族やパートナーと  
一緒に考えましょう。

まずは、  
がん治療が  
最優先です。



## がん治療による妊孕性への影響

手術による影響	両側卵巣、子宮、両側精巣の摘出などにより影響があります。
薬物療法による影響	抗がん剤などがん治療の薬剤の中には、精巣や卵巣機能に大きく影響するもの、ほとんど影響しないもの、影響するかどうかわかっていないものがあります。
放射線治療による影響	照射部位と照射量によって精巣や卵巣への影響が異なります。

妊孕性温存のために、適切ながん治療を行わなかったり、がん治療を遅らせたりすることは望ましくありません。妊孕性の治療を行う場合でも、行わない場合でも、適切ながん治療を行ってから、妊娠・出産をすることが大切です。

また、妊孕性温存を“行わないこと”も選択肢としてあります。

# 妊孕性温存治療(療法)への助成事業が スタートしました!

栃木県では、2021年4月からがん患者等の妊孕性温存治療に対する助成が受けられるようになりました。

## 妊孕性温存療法一覧と助成内容

女 性			男 性	
卵子凍結	受精卵凍結 (胚凍結)	卵巢組織凍結	精子凍結	精巣内精子凍結
採取した卵子を凍結します。	採取した卵子をパートナーの精子と受精させ凍結します。	手術により卵巢組織を採取し凍結します。	射精した精子を凍結します。	手術により精巣から精子を採取し凍結します。
助成上限額 (助成回数は通算2回まで)				
20万円	35万円	40万円	2万5千円	35万円
※詳しくは、妊孕性温存療法実施機関やがん相談支援センターにご相談ください。				

## 助成対象者



### 以下の項目をすべて満たす方

- 1 栃木県内に住所のある方
- 2 凍結保存時に43歳未満の方
- 3 がん等の治療により、生殖機能の低下や喪失する可能性がある  
と診断された方
- 4 県が指定する妊孕性温存療法実施医療機関で治療を受けた方
- 5 「不妊に悩む方への特定治療支援事業」に基づく助成を受けていない方

当センターは、妊孕性温存治療助成申請窓口となっています。

また、栃木県がん・生殖医療ネットワークの事務局を担当し、県内における小児・AYA世代のがん患者等の方に向けた生殖機能の温存に関する支援を行っています。  
ご心配なことがありましたら、がん相談支援センターにご相談ください。

### お問い合わせ先

妊孕性に関するご相談/栃木県がん・生殖医療ネットワーク  
☎ **028-658-6484** (平日8時30分から17時)  
栃木県立がんセンター がん相談支援センター

### もっと詳しく知りたい方へ(Web情報)



◀ 栃木県ホームページ  
※申請様式は栃木県のホームページからダウンロードできます。



◀ がん情報  
とちぎ



◀ 国立がん  
研究センター  
がん情報サービス

## 医療機関の皆様へ予約窓口のご案内

ご紹介いただきありがとうございます。当センターでは、患者さんの症状やご希望に応じた外来診療予約を心がけております。ご予約の際は、下記までご連絡ください。

予約センター ☎ **028-658-5012**

受付時間 平日 8:30 から 16:30

※当センターは、初診、再診ともに予約制となっています。予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。また、予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。

### ～当日、患者さんにお持ちいただくもの～

- 保険証、各種医療証
- 診療情報提供書(紹介状)

- 各種検査結果、画像データ(お持ちの方のみ)
- お薬手帳(お持ちの方のみ)
- 当センターの診察券(お持ちの方のみ)

### ●病診連携に関するお問い合わせ

#### 地域連携センター

☎ 028-611-5503

平日 8:30 から 17:15

### ●がんに関するご相談

#### がん相談支援センター

☎ 028-658-6484

平日 8:30 から 17:00

### ●がんの遺伝カウンセリングや、ゲノム医療についての予約やお問い合わせ

#### ゲノムセンター

☎ 028-611-5480

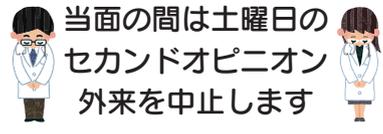
平日 8:30 から 17:00

## セカンドオピニオン外来のご案内

### ■平日午後

	月	火	水	木	金
消化器外科		菱沼 正一 (第2週のみ)	菱沼 正一 (第1・第3・第4・第5 のみ)		
主に胆・膵					
主に肝			尾澤 巖		尾澤 巖
主に大腸				藤田 伸 松下 尚之 藤田 剛 林 雅人 (※過毎の交代制)	
主に食道・胃				横島 一彦	横島 一彦
頭頸科					
肩軟部腫瘍・整形外科	菊田 一貴				

### ■土曜日午前

 <p>当面の間は土曜日の セカンドオピニオン 外来を中止します</p>	
---	--

※予告なく変更となる場合があります

予約センター ☎ 028-658-5012(直通) 受付時間 平日 8:30 から 16:30



## 交通のご案内

### 電車・バス

- JR宇都宮線「宇都宮駅」より  
→西口から関東バス「江曾島行(11番のりば)」に乗車。「がんセンター前」で下車。横断歩道を渡る。徒歩1分。(乗車時間約25分)
- 東武宇都宮線「江曾島駅」より  
→東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗車。「がんセンター前」で下車。徒歩1分。(乗車時間約5分)

### 自動車

- 東北自動車道「鹿沼I.C.」より  
→東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「滝谷町」交差点を右折南進し、JR陸橋を越え3つ目の信号「八千代1丁目」を左折。(約9.4km)  
→東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「宮環鶴田陸橋」を右折。「下砥上町」アンダーに入ってすぐ江曾島方向へ左折し7つ目の信号を左折。(約8.2km)

がんセンター  
たより

1月号  
令和4年(2022)  
1月15日発行

発行 地方独立行政法人栃木県立がんセンター 広報広聴センター  
〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13  
TEL. 028-658-5151(代) FAX. 028-658-5669

